

Issue.

2

2020/3/15

摂南大学 CEI NEWSLETTER

SETSUNAN UNIVERSITY 

摂南大学 CEI NEWSLETTER は、2018 年 4 月に立ち上げられた教育イノベーションセンター（Center for Educational Innovation; CEI）に関するさまざまな情報をお届けする広報紙です。第2号では、ミッションごとの取り組みの状況と2019 年度のおもな活動実績等について紹介します。

教育イノベーションセンターへの期待（学長 荻田 喜代一）

摂南大学は『アクティブ・ラーニングの摂大』『教育改革の摂大』などのニックネームがつつつある今日、教育イノベーションセンターが大学の学修環境において更なるイノベーションを起こすことに期待したい。「イノベーション」は「技術革新」とともに「新結合」とも解される。広い視野をもって異質なモノ・コトが結合・融合して新たなモノ・コトを創出する意味である。メジャー（専門分野）結合、教員・職員・学生結合、高大結合、大学・社会結合なども考えられる。

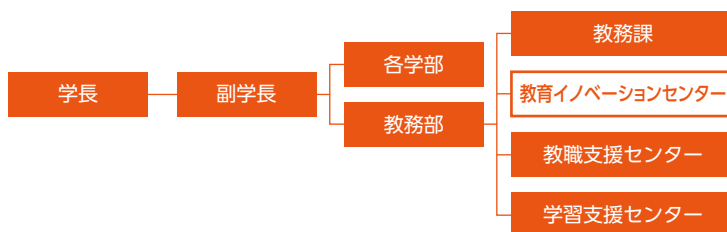
本センターへの期待として効果的な全学教育（初年次教育を含む）の実施がある。ここで『啐啄（そったく）同時』を引用したい。「啐」とは鶏の雛が産まれるときに卵の殻を内からつつく音、「啄」とはそのとき同時に親鳥が外から殻をついばんで破ること。啐と啄が同時に新しい生命が誕生する。学生の新たな成長のためには、学生（雛）と教職員（親鳥）の健全な関係性と適切な学びの内容やタイミングが重要である。本センターが全学部と融合した新たな教育改革に期待する。

教育イノベーションセンターの概要（教務部長 伊藤 譲）

教育イノベーションセンター（CEI）は、石井三恵センター長、柳沢学・久保貞也両副センター長をはじめとする 16 名のスタッフからなる組織です。内、7 名は各学部から選出された運営委員で、センター教育職員、センター員等合計 6 名と共に活動を行っています。これらのスタッフが、ほぼ毎月開催される運営委員会において、(1) 全学共通教育の策定・運営、(2) PBL の企画・運営、(3) 副専攻

課程の企画・運営、(4) 高大連携教育の企画・運営、(5) キャリア教育の企画・運営、(6)TA および SA (LST) の養成、(7)FD・SD 研修会の策定および運営を行っています。今年度は、2年目で、教務委員会および FD 委員会等と密接に連携を取り、全学の視点から両委員会活動のエンジンとなって貢献しています。

教育イノベーションセンターは、摂南大学における教育の質保証、教育能力の開発および向上、教育プログラムの開発およびその支援の取組みを実行し、教育改革を進める組織です。



教育イノベーション研究会で「これからの教育」をテーマに対話を行う参加者たち

ミッションごとの取り組み目標と実施状況

● 共通教育の策定・運営

取り組み目標：共通科目に関して共通教育小委員会と連携し再構築を目指す。

実施状況：本学の教育の方針に則り、豊かな人間性を養うため、学問分野の枠を越えて共通に求められる知識や技法について様々な角度から物事を見ることができる能力の涵養を目的に、教養教育の分野系統区分の整理、科目名の統一および授業内容の整理・再構築を行いました。2020年度より順次開講していきます。

● PBL プロジェクトの企画・運営

取り組み目標：プロジェクト運営の質的向上。

実施状況：2019年度は13プロジェクト、202名の履修学生で開講し、1年間を通じてプロジェクトに取り組みました。2019年12月26日に開催された最終報告会では「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」、「地域を便利にするアプリ開発」が最優秀賞を受賞しました。

2020年度もプロジェクトの質的な向上を目指しながら、円滑な運営を心がけてまいります。

● 副専攻課程の企画・運営

取り組み目標：ソーシャル・イノベーション1期生の修了に向けた準備と継続・発展のための改善。

実施状況：2018年度までの現状分析を行い、副専攻課程の履修が学生の学習状況の向上に貢献していることを明らかにしました。また、現在の履修条件を見直すとともに今後の発展に必要な要件について検討を行っています。現状の課題をふまえ、来年度以降の改善策の実施準備を進めています。

● 高大連携（接続）教育の企画・運営

取り組み目標：中高大連携プログラムの教育内容・方法の工夫と改善、中高生とその保護者に理解しやすい取り組みを目指す。

実施状況：保護者を対象とした学園内の大学説明会の開催および中高大連携プログラムの内容改善と講師派遣への協力に取り組んでいます。

● キャリア教育の企画・運営

取り組み目標：「Learn How to Learn」の浸透を目指す。

実施状況：2011年度から本学において取り組んできた

キャリア教育も9年目を迎えました。当時より一貫して取り組んできたことは「キャリア形成科目を通じて、在籍時から『学ぶことを通じて学び方を学ぶ』という考えの浸透」です。今後も学生の将来の選択肢の実現可能性を高めることができるようにキャリア教育に取り組んでまいります。

● TAおよびSAの養成に関すること

取り組み目標：LST(Learning Support team)を核としたTAおよびSAのファシリテーション能力の養成を目指す。

実施状況：LST組織の規程を新たに策定し、学生によるLST活動の定例企画会議を毎月行いました。

所属の学生は、本年度は約60名で、学修キックオフセミナー、大学教養入門等の講義やイベントで活動し、社会人基礎力の研鑽に取り組みました。

● Faculty Development (FD)・Staff Development (SD)研修会の企画・運営

取り組み目標：教育の質をさらに高めるための教員およびスタッフの能力向上のための研修等を企画・立案し、実施・運営します。

実施状況：アクティブ・ラーニングのための手法やワークショップを複数回開催しました。「オープンダイアログ」についての学びや「対話のことば」カードを使って、ワークショップ形式で対話の本質・心得を実践的に体験したり、ABD手法により教育・研究にも役立つKJ法について実践的に学び合う研修会を開催しました。



2019年度のおもな活動実績

●学修キックオフ・セミナー

2019年4月4～5日に寝屋川キャンパスで、新入生対象の「学修キックオフ・セミナー」が実施されました。このセミナーは、新入生が在学生のサポートを受けながら自己理解を深めるワーク等に取り組むものです。昨年度は受講者側だった現2年生が、「一年前、先輩が輝いて見えた。自分も先輩のように新入生を迎えたい!」と企画・運営を担当してくれました。新入生への指導を通じ、在学生のプレゼンテーション能力やファシリテーションスキルを養成することも本セミナーの目的となっています。



●Learning Support Team (LST) 新メンバー歓迎ワークショップ

2019年6月16日、Learning Support Team (LST) 新メンバー歓迎ワークショップを開催しました。ワークショップでは、チームビルディングのためのワークを中心として行い、最後に教育イノベーションおよびLSTの意義「教職員と協働して、主体的・活動的で深い学びの場を創る学生スタッフ」を確認いたしました。当日の参加者は1年生12人、2,3年生20数人でした。休日にもかかわらず多くの学生が参加し、LSTのチームビルディングができ、今後の活躍が期待されます。



●ABD手法を用いた「発想法」の読書研修会

ABD法を用いた「発想法」の読書研修会を2019年12月27日に実施しました。はじめの1時間半で、読む分担を決めて読み込み、用紙にまとめて発表するABD手法で、川喜田二郎氏の書籍「発想法」を読んで、KJ法の歴史や実用方法を学びました。次に1時間半で、パターンランゲージ(研修会は2019年10月24日実施)のカードを班に分かれて分類し、班ごとに分類された理由を語る実践を行いました。この研修ではKJ法を理解するとともにKJ法を研修で活用する場合のファシリテートも学修できました。



●インターンシップ最終報告会

2019年10月26日、摂南大学インターンシップ最終報告会が開催されました。報告会では、「インターンシップ(文系・理系)」、「海外インターンシップ」、「ものづくりインターンシップ」、「海外ものづくりインターンシップ」の代表者が、実習の内容とインターンシップでの経験を通じた学び、成長点について、それぞれの視点からプレゼンテーションを行いました。



●SDGs Festa@北河内

2019年11月9日、摂南大学スカイラウンジにおいて「SDGs Festa@北河内」が開催されました。本イベントでは、経済産業省近畿産業局・坂本りっか氏による基調講演のほか、国連が掲げるSDGs推進のために何ができるのかを、ビジネス、研究・教育、市民活動、子どもという4つの視点から考えました。大学内外からの参加者は130名を超え、それぞれの立場でSDGsとどう向き合うかを議論、共有する機会となりました。



●教育イノベーション研究会

2019年11月30日、OITタワーにおいて第2回教育イノベーション研究会「令和からの教育」が開催されました。研究会では、リクルート進学総研所長・小林浩氏による基調講演のほか、教職員、学生からの話題提供、参加者がそれぞれの立場から本音で対話するワークショップが行われました。それぞれのセッションにおいて示された輝く未来で活躍できる学生が育つための推進力となる様々なアイデアは、参加者にとって意義深いものばかりでした。



●PBL プロジェクト最終報告会

2019年12月26日、摂南大学PBLプロジェクト最終報告会が開催されました。本学では2010年度よりProject Based Learning(課題解決型学習)に取り組んでおり、本年度は、13のプロジェクトを実施し、202名の学生が参加しました。報告会では、各プロジェクトの代表者が活動の成果や課題とその乗り越え方などについて発表し、その後、プロジェクト履修者が一堂に会して今後のさらなる成長のために活動ふり返りと共有を行いました。



教育イノベーションセンターの3年目の取り組みについて(教育イノベーションセンター長 石井 三恵)

設置2年目となる本年度は、元号も令和と変わり、「予測不可能な時代」の中、ますます高等教育の在り方が問われることに本センターも直面しておりました。「教育内容の体系化とその充実、サービスラーニング・入学前教育・初年次教育の導入、学修ポートフォリオ・学修ルーブリック・学修成果フィードバックの作成、GPA活用」などの教務的事案や、大学全体としての「3つポリシー」策定で「建学の精神」に基づいた内容の検討など、本年度は教務委員会との連携を図ってきました。また、教員へ参考となる授業の在り方・進め方など、参考になる講座を開催し、FD活動の一端も担いました。その一方で、SA(Student Assistant)やLST(Learning Support Team)などの学生活動を支えました。

高等教育は「教える /teaching」から学生などのステークホルダーと「共に学ぶ /learning」の時代に入っています。知識と技術を身に付け、それを行動に移すこと、つまり、「わかることからできることへ」学びを移行させる必要性が高等教育にあると考えております。「高大接続・連携プログラム・産学連携・地域連携」も大切です。2019年度秋に「SDGs フェスタ」を開催し、「地域に愛される大学」をさらに目指し、教員と職員が協力し合う「教職協働」を進めてまいりました。

難題は山積みですが、一つひとつ丁寧に対応し、気づきを発信できる「教育イノベーションセンター」でありたいと、センター一同、思いを新たにいたしております。

編集後記

このたび、2018年4月に開設された摂南大学教育イノベーションセンター (Center for Educational Innovation: CEI) の取り組みやCEIが掲げる7つのミッションの実施状況、今年度のおもな活動実績を整理した「摂南大学CEI NEWSLETTER」第2号を無事に発行することができました。ひとえに、本センターの運営、イベントの実施にご協力をいただいております皆様のおかげと存じます。心よりの御礼を申し上げます。引き続き、ご指導、ご協力を賜りますようお願いいたします。

(文責：教育イノベーションセンター 上野山 裕史)

摂南大学 CEI NEWSLETTER Issue. 2 2020.3.15
WEB サイト： <https://www.setsunan.ac.jp/kenkyu/cei.html>

発行元：摂南大学教育イノベーションセンター
メールアドレス： cei@atf.setsunan.ac.jp